

三三八〇番

埼玉さきたまの津つに居をる舟ふねの風かぜをいたみ 網つなは絶たゆと
も 言ことな絶たえそね

三三八一番

夏麻なつそび引く 宇奈比うなひをさして 飛とぶ鳥とりの 至いたらむと
そよ 我あが下延したはへし

三三八二番

馬来田うまぐたの嶺ねろの笹葉ささばの 露霜つゆしもの 濡ぬれて我来わきな
ば 汝なは恋こふばそも

三三八三番

馬来田うまぐたの嶺ねろに穂かくり居ある かくだにも 国くにの遠とほか
ば 汝なが目欲めほりせむ